保健体育科学習指導案

令和３年１０月６日（水）　第５校時　２年

１ 単元名　球技「ゴール型」バスケットボール

２ 教材観

⑴ 学習指導要領上の位置付け

① 知識及び技能

ゴール型ではボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができる。

② 思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

③ 学びに向かう力、人間性等

球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができる。

⑵ 単元の価値

ゴール型とは，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。バスケットボールは，相対する２チームが一つのボールを媒介にして，個人的・集団的技能による攻防を展開し，限られた時間内に相手ゴールに多くシュートを決めることによって，勝敗を競うスポーツである。ゴール型のバスケットボールでは、投げる、受ける、運ぶ、手渡すといったボール操作と、ボール保持者からボールを受け取ることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって、チームの作戦に基づいた位置取りをするなどの攻守入り混じったゲームをすることがねらいである。

チームスポーツなので、一人ではできないことも仲間の協力を得ることでできるようになったり、一人ではなくみんなで勝つことの喜びを感じたりすることができる。そういった経験から、仲間の大切さ、みんなで協力することの大切さに気付けるようにしていきたい。

⑶ 今後の学習への活用

単元を通して、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開する力を身に付けることで、第３学年のバスケットボールで、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する活動につなげていく。

本単元では、積極的に振り返りの場面を取り入れている。自分の動きを見たり友達と話合いをしたりする中で、「めあてが達成できたか」「次の自分の課題は何か」などを考える活動は、どの単元でも大切になってくる。他の単元や、他の教科の授業でも、めあてに沿った振り返りの場面を設けていくことで、より充実した学習にしていきたい。

３ 児童生徒の実態および指導方針（男子１９名、女子１３名、計３２名）

⑴ 既習の学習内容や活動

昨年度はバスケットボールを行っていないが、小学校の授業で行っていた。基本的なボール操作が身に付いていなかったり、ルールもほとんど知らなかったりする生徒が多い。単元全体を通して、ボール操作を身に付けるためのスキルアップドリルを行うことが良いと考えられる。

⑵ 本単元に関する児童生徒の実態

【知識及び技能】

中学校に入ってから初めてのバスケットボールの授業であり、「バスケットボールに関するルールや名称で知っていることはありますか？」という質問に対して、２つ以上解答できた生徒は少なく、バスケッ

トボールのルールや名称等も多くの生徒が理解していない。

【思考・判断・表現】

各単元で自己や仲間の課題を見付け、その課題を克服するために達成度や動きのポイントを伝えあう活動を取り入れている。教師側で課題を絞ることで多くの気付きが見られたが、その表現は具体性に乏しいものが多い。「自分から友達にアドバイスや気付いたことを伝えている」について、「よく当てはまる」は７人、「少し当てはまる」は１３人、「あまり当てはまらない」は４人、「全く当てはまらない」は２人であった。「先生や友達からのアドバイスを自分の学習に役立てている」について、「よくあてはまる」「少し当てはまる」と答えた生徒は、２５人であった。この結果から、アドバイスは役立てるが、積極的に自ら考えたり、その考えを友達に伝えたりすることができる生徒は少ないことが分かる。グループ学習の際に、具体的な発言をできる生徒は限られている。

【主体的に取り組む態度】

「球技は好きですか」について「よくあてはまる」「少し当てはまる」にした生徒は２０人であった。アンケートから、体育への興味・関心は高い生徒が多いが、バスケットボールに対して、不安や苦手意識をもっている生徒は多く、「バスケットボールの授業が楽しみですか？」という質問に対して「あまり当てはまらない」は１４人、「全くあてはまらない」は６人であった。理由は「ほとんどやったことがない」「ルールが分からない」「苦手」などという意見が多く挙がった。ルールをしっかりと説明したり、段階的な指導で少しずつ成功体験を積み重ねたりするとともに、チームで協力することの楽しさを感じられるようにしていきたい。

⑶　指導方針

＜全体を通して＞

・ボール操作の基本的な動きが身に付くよう、単元を通してスキルアップドリルを行う。

・一人一人の運動量を確保し、活動がスムーズに流れるようにするため、少人数でチームを編成したり、活動の流れを習慣化したりする。

・学習意欲を高められるようにするため、活動中の生徒への声掛けをしたり、授業のまとめには、頑張った生徒を紹介したりする。

＜「つかむ」段階＞

・安全でスムーズに授業が進められるようにするため、約束やマナーを丁寧に確認する。

・空いている空間を意識した攻めができるようになっていくことが単元の大きな目標であることを理解できるようにするため、ドリブルなしの試しのゲームを行い、ボールを持たないときの動きの難しさを感じ課題意識がもてるようにする。

・スキルアップドリルを短時間で効率的に行えるようにするため、やり方やポイントを単元前半で丁寧に説明する。

＜「追究する」段階＞

・話合いがめあてに沿ったものとなるようにするため、話し合うポイントを掲示したり、オフェンスの動き方の具体例が載った作戦シートを配布したりする。

・話合いの場面で、チームの動きを視覚的に捉え、より動き方についてイメージしやすくなるようにするため、タブレットを使ってチームの動きを確認できるようにする。

・ボールを持たないときの動きを意識した学習にするため、オフェンスにとって数的優位な状況や少人数でのゲーム等、ルールを工夫したタスクゲームを取り入れていく。

＜「まとめる」の段階＞

・単元を通して学習してきたことを生かし、実践できるようにするため、リーグ形式の試合を設ける。

・チーム全員が達成感をもって取り組めるよう、一人一人の違いを認め合い、全員が活躍できるような目標・課題設定を心がけるようにする。

・チームの関係を深め、互いに尊重し合えるようにするため、仲間の良いプレイを積極的に称賛するよう声掛けをする。

4 単元の目標

○ 技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，ドリブルやパスなどのボール操作やゴール前の空いている場所に動くなど空間に走り込む動きができるようにする。

（知識及び技能）

○ 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

○ 球技に積極的に取り組むとともに，体力や技能の程度，性別など一人一人の違いを認めながら，学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助することができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

5 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
①集団対集団、個人対個人で攻防を展開する等の運動の特性や成り立ちについて、言ったり、書き出したりしている。 ②技術の名称や身に付けるためのポイントについて学習した具体例を挙げている。	①パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ②ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを打つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄えを伝えている。 ②課題の合理的な解決に向けて自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームの方法を見付け、仲間に伝えている。	①課題解決に向けて、球技の学習に積極的に参加しようとしている。 ②作戦や戦術を決める話合いに参加しようとしている。 ③ルールやマナーを守り、健康・安全に留意することができている。

6 指導計画（全9時間予定）

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	1	○学習の進め方やルールを理解することができる。 ・ルールの確認 ・チーム分け(各７，８人の４チーム) ・試しのゲーム５対５ ・スキルアップドリルの確認	・作戦やオフェンスの動き方等についての話合いが充実するよう、各チームに一人はバスケット経験者を入れる。 ・技の名称や、どういった行為がファールかを理解しやすくするため、拡大掲示物やICTを活用する。	〈主体的①〉 課題解決に向けて、球技の学習に積極的に参加しようとしている。【観察】 〈知識①〉 集団対集団、個人対個人で攻防を展開する等の運動の特性や成り立ちについて、言ったり、書き出し

		【単元の課題】５対５のゲームにおいて、基本的なボール操作を用いて、「空いている空間」を意識した攻め方を身に付けることができる。		たりしている。 【観察・ワークシート】
追究する	2	○ゲームに必要なボール操作（ドリブル・パス・シュート・ボール保持等）の技能を身に付けることができる。 ○ボールを持たないときの基本的な動き（Ｖカット、Ｌカット等）を身に付けることができる。 ・スキルアップドリル ・２対１、３対２のゲーム（ドリブルなし） ・作戦タイム ・振り返り、次時に向けた話合い	・単元を通して行うスキルアップドリルを、短時間で効率的に行えるよう、やり方やポイントを丁寧に説明する。	〈知識②〉 技術の名称や身に付けるためのポイントについて学習した具体例を挙げている。 【観察・ワークシート】
	3		・スキルアップドリルに意欲的に取り組めるよう、個人の能力に応じた課題を選べるようにする。 ・アウトナンバーで攻めやすい状況の中で、落ち着いてゲームができるようにする。	〈思判表②〉 課題の合理的な解決に向けて自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。【観察・ワークシート】
	4	○空いている空間を作り出したり、空いている空間に走り込んだりするためにはどうしたらよいかを考え、他者に伝えることができる。 ・スキルアップドリル ・３対３のゲーム（ドリブルなし） ・作戦タイム ・振り返り、次時に向けた話合い	・振り返りの場面での話合いがめあてに沿ったものとなるよう、話し合うポイントを掲示したり、オフェンスの動き方の具体例が載った作戦シートを配布したりする。	〈思判表①〉 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄えを伝えている。【観察・ワークシート】
	5 **本** **時**		・振り返りの場面での話合いにおいて、チームの動きを視覚的に捉えることで、動き方についてのイメージが付きやすくなるようにするため、タブレットを使ってチームの動きを確認できるようにする。	
	6 7	○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ○パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・スキルアップドリル ・３対３、５対５のゲーム（ドリブルあり） ・作戦タイム ・振り返り、次時に向けた話合い	・空いている空間に動けているかどうか等その場でフィードバックできるよう、プレイしている選手、していない選手関係なく、積極的に仲間に声掛けできるようにする。 ・タスクゲームの中で身に付けた技能を活用し、次の課題に活かせるようにする。	〈技能①〉 パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。【観察】 〈技能②〉 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを打つことができる。【観察】

まとめる	8	○得点するために必要な動きを考えて、仲間に伝えることができる。 ○作戦や戦術を決める話し合いに参加することができる。	・全員が気持ちよく試合ができるよう、試合中のマナーについて確認をする。	〈主体的②〉 作戦や戦術を決める話合いに参加しようとしている。【観察】
	9	・チームごとの課題に合わせた練習 ・５対５のメインゲーム ・リーグ戦 ・作戦タイム ・振り返り	・チーム全員が達成感をもって取り組めるよう、一人一人の違いを認め合い、全員が活躍できるような目標・課題設定を心がけるようにする。	〈思判表③〉 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームの方法を見付け、仲間に伝えている。【観察・ワークシート】
	10		・チームの関係を深め、互いに尊重し合えるようにするため、仲間の良いプレイを積極的に称賛するよう声かけをする。	〈主体的③〉 ルールやマナーを守り、健康・安全に留意することができている。【観察】

7 本時

⑴ ねらい

課題をもってゲームに取り組み、グループ内で振り返る活動を通して、空いている空間を作り出したり、空いている空間に走り込んだりするためにはどうしたらよいかを考え、他者に伝えることができるようにする。

⑵ 準備

ボール、ホイッスル、ワークシート、ホワイトボード、マグネット、タブレット、撮影用机、得点版、ビブス

⑶ 展開

学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	○指導上の留意点及び支援・評価　◇評価 ◎努力を要する児童生徒への支援
1　準備運動→体操→挨拶	5	○怪我の予防のため、指、肩、膝、足首といった怪我が起こりやすいところは重点的に行う。 ○意欲的に取り組めるよう、個人の能力に応じた課題を設定できるようにする。
2　スキルアップドリル（ドリルゲーム） ①ドリブル（右手→左手） ②ドリブルパス （直線→バウンズ） ③シュート練習	10	○ゲームを意識した練習になるよう、声かけをする。 ◎できるようになったところを積極的に認めて称えたり、ポイントを再度説明したりするなどの個別支援を行う。 ○前時で学習したポイントができている生徒を称賛し、全体への意識付けを行う。

3　めあての確認（２分） グループで協力して、「空いている空間」を意識した作戦を考えよう！	2	○本時のめあてを明確にするため、前の時間に考えた課題をワークシートを使って確認する。 ◎ホワイトボードとマグネットも用意しておき、動きを視覚的に捉えやすくする。
4　３対３のゲーム１回目（タスクゲーム） ・１ゲーム２分で行い、４ゲーム行う。毎回終了時に攻守交代する。（計８分） ・ボールアウトや得点後、守備のボールカットは攻守交代せず、始めの位置から再開する。 ・ゲームとゲームの間は約１０秒 ・ボールは２個使用。	１２	○最後の振り返りで動きを確認できるようにするため、試合の様子を動画に撮っておく。 ○チームの作戦がうまくいっているか、課題は何かを考えるとともに、すぐ試合に入るよう声かけを行っていく。
5　作戦タイム 【話合いのポイント】←２時間目から掲示 ①空いている空間はどこにあったのか？ ②空いている空間を作ることができたか？ ③空間を作り出すための具体的な動きはどういう動きか？	4	○具体的な動きを確認しやすくするため、試合中の動画を見たり、ホワイトボードとマグネットを使ったりしながら話合いを行う。 ○めあてに沿った話合いになるようにするため、空間を意識したりボールを持たないときの動きを考えたりするよう声かけをする。
6　３対３のゲーム２回目（タスクゲーム） １回目と同様に行う。	１２	○空いている空間に動けているかどうか等その場でフィードバックできるよう、プレイしている選手、していない選手関係なく、積極的に仲間に声をかけさせるようにする。
7　本時の学習についてまとめる。 (1)　本時の振り返りをチームのワークシートに記入する。 (2)　次の時間に向けためあて・作戦をチームのワークシートに記入する。 (3)　個人の振り返りを個人のワークシートに記入する。	2 2 1	○話合いが明確になるよう、話合いのポイントを提示する。 ○次時からドリブルありのゲームになるため、今まで学んできた技能や今回の振り返りを活用しつつ、作戦の幅を広げていけるよう声かけをする。 ◇【思考・判断・表現】 空いている空間を作り出したり、空いている空間に走り込んだりするためにはどうしたらよいかを考え、他者に伝えることができている。 （観察・ワークシート）